

2023年12月 ブログ集

目次

12月 1日	FT8 F/H なのか MSVH なのか？それが問題だ！	2
12月 2日	牡蠣の季節になりました	3
12月 3日	ブレッドボードにも使える電線	4
12月 4日	日圧(JST)のXHコネクタなどが圧着できる工具	4
12月 5日	DXCC Challenge Status	5
12月 6日	VU7A Lakshadweep Is.	6
12月 7日	Qマッチのための同軸管	7
12月 8日	今朝のVU7A(160m)はスプリット	8
12月 9日	IC7851でFT8をデュアルワッチ	9
12月 10日	VU7A 聞こえるけど全然飛ばない！	10
12月 11日	432MHz用2分配器の試作	12
12月 12日	遂にQSOできたよ VU7A on 160m band	13
12月 13日	KG4NE Guantanamo Bay on 17m	15
12月 14日	マルチバンド用アンテナを比較検討	15
12月 15日	ちょっと変わったクロスマウントの製作	16
12月 16日	駐車場は、ほぼ完成したけれど・・・	18
12月 17日	町内会の忘年会	19
12月 18日	2台目のポタ電 ALLPOWERS S2000Pro	20
12月 19日	DUCATO引き取り	21
12月 20日	Fiamma F80S Ducato 320 roof awning	22
12月 21日	VU4N Andaman Is.	24
12月 22日	DUCATOの隔壁を撤去	25
12月 23日	VU4N on 160m	27
12月 24日	デッドニングシートの比較検討	28
12月 25日	駐車場の霜崩れ対策	28
12月 26日	猪のベーコン作りと雨水排水路工事	29
12月 27日	雨水排水路の仕上げと門松作り	30
12月 28日	DUCATOの隔壁を再利用？！	32
12月 29日	430MHz帯用パワースプリッターの作り方	34
12月 30日	ハイエースに着けていたオーニングをピザハウスに移設	37
12月 31日	7O8ADとPR0TがLoTWで未コンファームなのは何故？	38

12月1日 FT8 F/H なのか MSVH なのか？それが問題だ！

今や DX ハンティングに欠かせないモードになっている FT8 ですが、DX ペディション局が F/H モードなのか MSVH なのか見極めて運用することが鍵だと思います。一寸前の PR0T の DX ペディションで、1000Hz 以下で呼んでいたところ、「F/H モードだよ」とアナウンスするポリス局がいましたが、PR0T はホームページで「すべての FT8 運用は MSVH で行う」とアナウンスしていました。YL2GM による ZD9W や VK9XY/VK9CY なども MSVH での運用でした。昨今運用している 9L5M もオペレータ本人である M0KRI が FT8 MSVH とセルフスポットしているのにも関わらず、F/H 運用だとスポットする御仁がいらっしゃいます。F/H だとスポットする局が多いのは何故なんでしょうか？

マルチストリームの DX 局は F/H だ！という固定概念が出来上がっているのでしょうか？しかし、昨今の DX ペディションでは半数近くが MSVH で運用しているように思います。

スポットする局は自分で QSO した後でスポットするケースが多いと考えらるので、「F/H モードに設定して QSO できたから、相手の運用モードは F/H に違いない！」という思い込みがあるのではないかでしょうか？DX クラスターに F/H モードだと書き込みがあったので、F/H モードに違いない！という思い込みもあるのでしょうか。相手が MSVH でも F/H モードにして呼べば応答があるというのはメリットですが、応答があった時に周波数が移ってしまうのは、1000Hz 以下がクリアな時には役に立ちますが、そうでない場合（少なからずの局が MSVH だと認識していて 1000Hz 以下で呼んでいるような場合）には、QSY してしまうのは却って不利になるので、QSY せずに最初に送信していた周波数のままでレポートを送信した方が QSO が成立する可能性が高くなるというものです。それなのに、邪魔だから送信するのを止めろ！などとアナウンスするのは如何なものでしょうか？

本当に邪魔なのは、DX 局と同じピリオドで、DX 局の周波数近傍で呼ぶ局です。これは止めて欲しいと思います。同じピリオドで呼んでいたのでは、いくら呼んでもコールバックがあるわけがないのです。

良くワッチしていれば、F/H なのか MSVH なのかは見分けが付きます。1000Hz 以下で呼んでいる局に応答がある場合は、MSVH です。DX 局が送信するシグナルレポートの中に "R-10" などが含まれている場合は、MSVH です。他言に惑わされず、自身で識別するようにしましょう！まして、ポリス局宜しく「要らん世話」は無用に願いたいものです。

それと F/H か MSVH かというタイトルからは離れますぐ、DXscape を見ていると、「誰それが same DT で呼んでいる！」という誹謗中傷とも思えるように書き込みがあるのには閉口します。何時からオンフレで呼んではいけないというルールになつたんでしょうか？JT65 や FT8 が始まった当初は、オンフレ呼ぶのが当たり前でした。今でも CQ を出せば、オンフレで呼んでくる局が沢山います。なので、そういう誤解を招くような書き込みはしてほしくないと思います。

12月2日 牡蠣の季節になりました

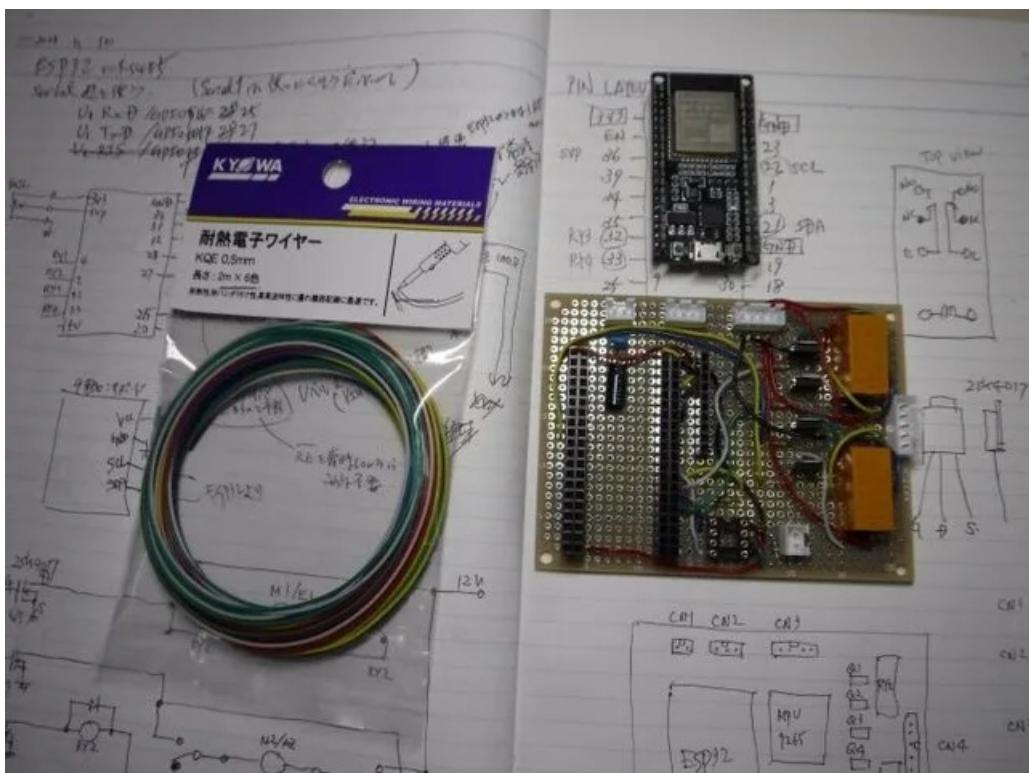
12月になり牡蠣の季節になりました。週末にホームパーティーがしたくて、牡蠣を取り寄せました。昨年までは、牛窓のとある牡蠣屋さんにお願いしていましたが、今年は閉店してしまったとのこと。仕方がないので、ネットで色々探した結果、宮城県松島の牡蠣屋さんにお願いしていたところ、本日正午頃に配達されました。早速、開栓して焼き牡蠣にして楽しみました。大きな牡蠣で大満足です。



12月3日 ブレッドボードにも使える電線

シアラレオーネへのDXペディション局である9L5Mをワッチしながら、電子工作に勤しんでいます。中々デコードできないので、電子工作が捗ります。

11月18日のブログで紹介している月の自動追尾システムのためのボードを蛇の目基板に配線しています。これまで、蛇の目基板に配線する時には、潤工社のジュンフロン電線(AWG24)を使用していましたが、手持ちが少なくなっていました。この電線は、撲線ですが素線数が7と少なくNiメッキが施されているため、ブレッドボードに挿入して配線することができます。これに代わる良い電線はないかと物色していたところ、「協和ハーモネット 架橋ポリエチレン電線 産業機械用ケーブル 全長2m 導体外径0.5mm 1袋(6色×1本)@1,390円」というのを購入して試したところ、良い感じだったので紹介します。このワイヤは単線なので、ブレッドボードにも使えます。単線であってもΦ0.5mmなので、硬すぎて困る程のことはありませんので、蛇の目基板の配線にも適しています。おまけに、6色もあるので、赤は電源、黒はGNDというように色を使い分けると、配線チェックも楽にできます。



12月4日 日圧(JST)のXHコネクタなどが圧着できる工具

電子工作をする時、基板外部との信号を接続するためにコネクタは必須です。私は、信号線数が多ければ2.54mmピンヘッダーなどを使用しますが、信号線数が少ない時には日圧(JST)のXHコネクタなどを使います。電線側の接続をする時、これまでには小さな

ラジオペンチで圧着端子を潰して、その上から半田付けしたりしていましたが、半田でコネクタが埋まってしまったりすることが多くて困っていました。

メーカーが提供する専用工具は7万円近くするので、毎日使うのならいざ知らず、おいそれとは手が出ません。皆さんはどうしているのかなあと思って、検索すると、Youtubeで紹介されていた工具が良さそうだったので、早速Amazonでポチッとしたしました。今日、配達されたので、早速試してみました。

専用工具だと電線と被覆を同時にカシメることができます、この工具では、先に電線をカシメて、続いて被覆をカシメるというダブルアクションが必要です。素人が使うには少々手間が掛かっても工具代が安い方が良いでしょう。試しにやってみたところ、電線、被覆ともきれいにカシメられていて抜けたりすることもありませんでした。こりゃいいわ！今後、電子工作がより一層楽しくなりそうです。やっぱ道具だよね～！

因みに、この工具は専用工具ではない代わりに、色々なコネクタに対応しているようですので、コネクタの選択肢が広がりそうです。



12月5日 DXCC Challenge Status

今季のDXシーズンは9月からの3か月で約半分が終わりましたので、ここでDXCC ChallengeのStatusをチェックしてみました。

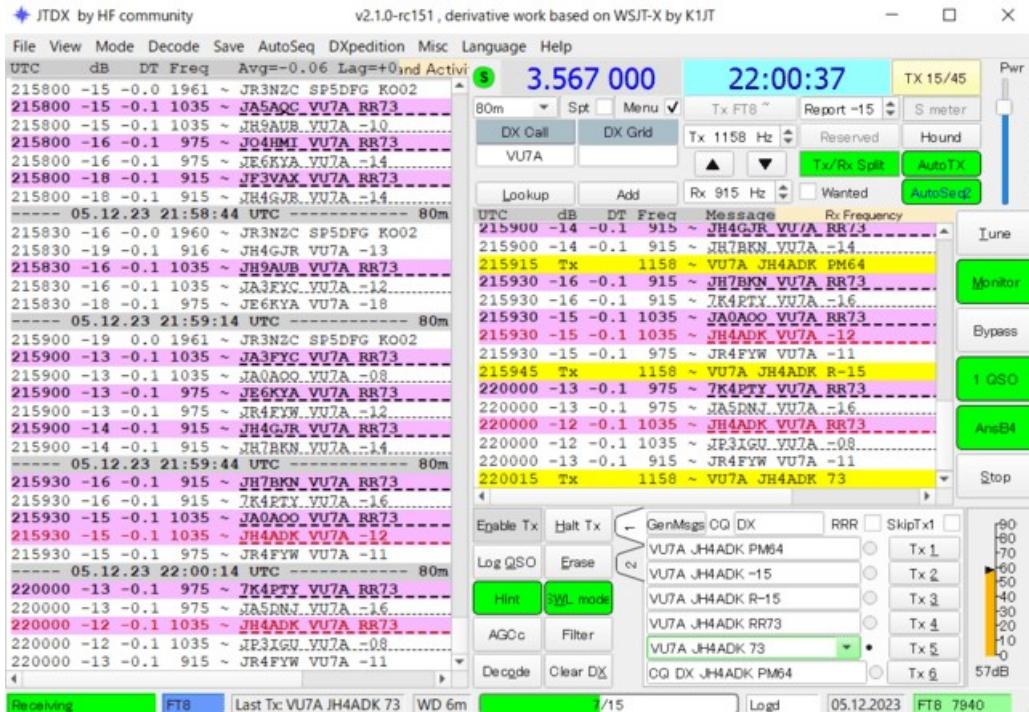
Your Logbook DXCC Account (JH4ADK - JAPAN)					
Account Status					
DXCC Award	New LoTW QSLs	LoTW QSLs in Process	DXCC Credits Awarded	Total (All)	Total (Current)
Mixed *	7	0	324	331	321
CW *	8	0	299	307	305
Phone *	2	0	258	260	252
Digital *	27	0	271	298	298
160M *	4	0	118	122	122
80M *	7	0	182	189	189
40M *	6	0	266	272	271
30M *	18	0	254	272	272
20M *	10	0	279	289	284
17M *	31	0	238	269	269
15M *	30	0	248	278	275
12M *	71	0	165	236	236
10M *	63	0	178	241	239
6M	15	0	87	102	102
2M	2	0	20	22	22
70CM	0	0	1	1	1
Challenge *	255	0	2004	---	2259

今年の4月4日にチェックした時には、2187 Entities だったので、それ以降で72増えました。この調子で、春のDXシーズンが終わる3月末頃までに2300をクリアしたいと思います。そのマイルストーンまでは残り41ですし、先月 QSO できた PROT や 708AD などは OQRS で QSL 請求していますが、未だコンファームできていないので、何とかクリアできるでしょう。

DXCC Challenge のチェックリストを更新しました。LoTW で未コンファームのエンティティーだけではなく、コンファームできっていても1バンド～3バンドというように、バンドニュー獲得の余地があるエンティティーには目印のために色付けしました。

12月6日 VU7A Lakshadweep Is.

VU7へのDXペディションは、今年4月にVU7Wが実施されたばかりですが、今度はVU7AというコールサインでDXペディションが再度決行されています。一昨日は40mバンドで、今朝は80mバンドでQSOできました。いずれもバンドニューです。VU7WでQSOし損ねた12m・160mバンドでのQSOを切望しているので、Welcom comebackです。



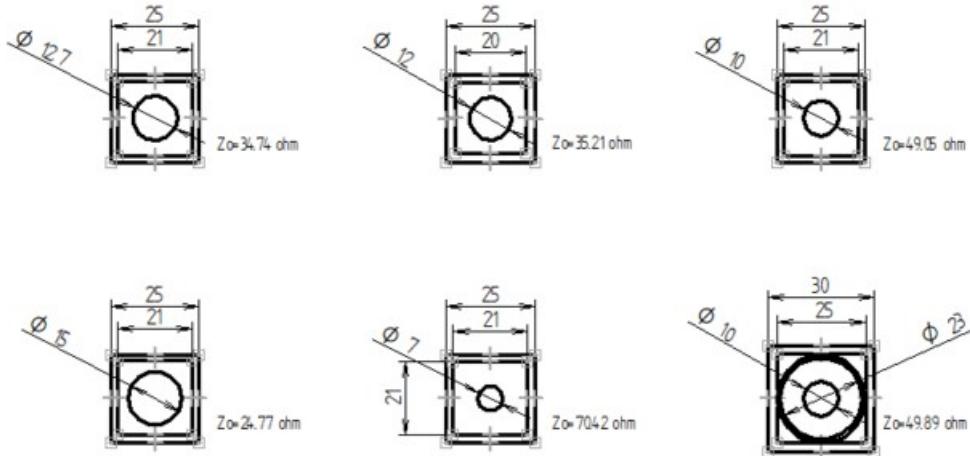
12月7日 Qマッチのための同軸管

432MHz EME用アンテナは2パラまたは4パラにする予定なので、パワースプリッタ（分配器）が必要になります。市販品を購入しようかと思いましたが、自作してみるのも面白そうなので、机上で検討しています。

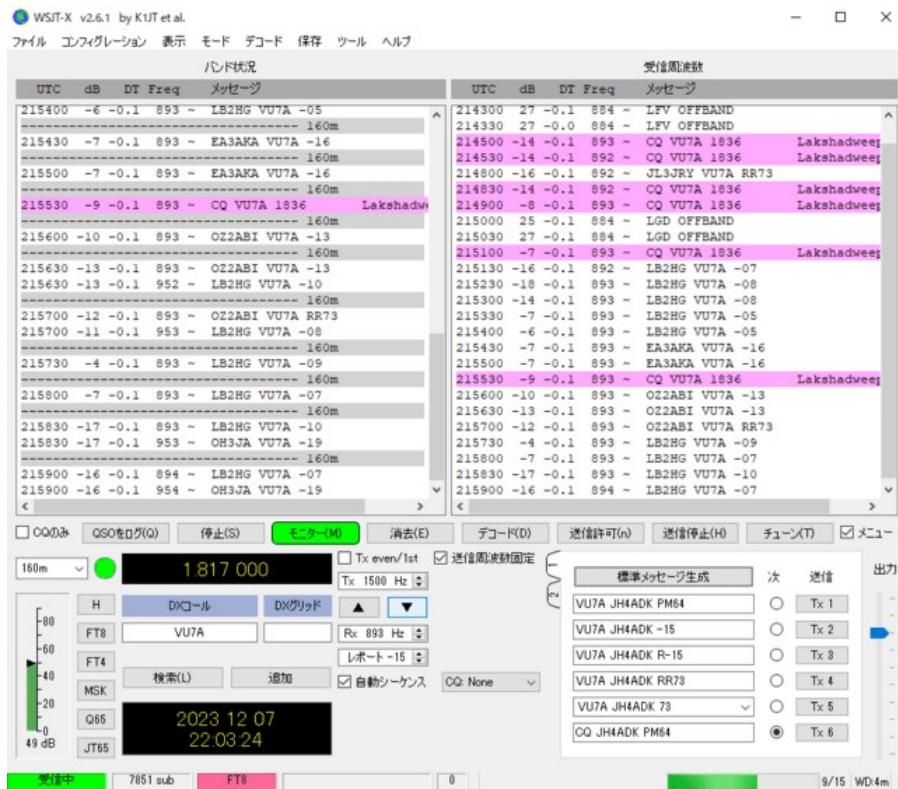
分配器は、Qマッチによるインピーダンストラnsでインピーダンスを整合させます。50Ωのアンテナを2並列にすると25Ωになるので、Qマッチによって50Ωにインピーダンス変換すれば良い訳です。同様に、50Ωのアンテナを4並列にすると、12.5Ωになるので、Qマッチで50Ωに変換します。特性インピーダンスが35.35Ωの伝送線路（同軸管）がλ/4の時、25Ωが50Ωに変換されます。同様に、特性インピーダンスが24.5Ωの同軸管では、12.5Ωが50Ωに変換されます。

[DG7YBNの計算サイト](#)を利用すれば、同軸管の特性インピーダンスを簡単に計算できます。市販のアルミ角パイプと真鍮丸パイプの組み合わせで同軸管を製作することを念頭に置いて、色んな特性インピーダンスの同軸管を設計してみました。

特性インピーダンスが70.7Ωの同軸管がλ/4の時、50Ωを100Ωに変換できます。同じく、特性インピーダンスが50Ωの同軸管がλ/4の時、25Ωを100Ωに変換できます。



12月8日 今朝のVU7A(160m)はスプリット



今日こそは、VU7A と 160m で QSO したいと思って早起きしました。Clublog Livestreams で 1836kHz に出ているようだったので、期待して無線小屋に行ってワッチャを開始しました。昨日は強く入感していましたが、1817kHz に出ていて、日本では 1830kHz 以下ではデジタルモードで送信できません。今日は 1836kHz なので良いだろうと思っていたのですが、一向にデコードできません。QRZ.com のページをみると、今日から 160m バンドではスプリットで運用するとの記述がありました。(TX:1817, RX:1836) どおりでデコードできない訳です。LiveStreams を見ていると、少なからず

のJA局とQSOしています。久しくFT8でスプリット運用なんてしたことがないので、どうやれば良いのか色々試してやっと何とか設定できました。

その場しのぎ的な設定なので、ベストなのかどうか疑問ですが、IC7851でデュアルワッチにして、普段送受に使っているJTDXを1836kHzに、偶に受信に使っているWSJT-Xを1817kHzにチューンインしました。オートシーケンスという訳には行かないでの、操作がややこしいのですが、それは応答が返ってきた時のことなので、とりあえず覚悟を決めて呼ぶことにします。やっとデコードできるようになると、"CQ VU7A 1836"と送信していたので、早速コールしましたが・・・なかなか応答がありませんでした。午前6時50分には-6dBまでになりましたが、その後信号は弱くなり、7時頃にはフェードアウトしました。ちゃんちゃん！

12月9日 IC7851でFT8をデュアルワッチ

昨日の朝、VU7Aが160mバンドでスプリットで出ていたので、今朝も早起きしてワッチしていましたが、残念ながら160mバンドにはQRVしてきませんでした。スプリットに対応する方法を色々試してみましたが、やはり昨朝のセッティングがベストだったようです。IC7851のメインを普段使いのJTDXでUSB Audio CODECで受信し、IC7851のサブを偶に使うWSJT-XでSPDIF(USB Audio CODEC)右で受信します。送信はメインのJTDXで行います。SPDIFはIC7851の光オーディオを利用します。USB Audio Codecでは右でも左でもモノラルでもメインの音しか拾いませんので、仕方なくSPDIFを使いました。SPDIFだと左にすればメインの音を拾うこともできます。

折角、色々試したので、コンディションの良いハイバンドをデュアルワッチしてみました。すると、8P6DOが17mでCQを出しているのを見つけました。最初はVK6の局に応答がありましたが、その後私に応答がありました。バンドニューをゲットです！・・・と言いたいところですが、QRZ.comで調べると、この局はLoTWに対応していないようです。残念！



最近は、横着をして DX ハンティングでも DX クラスタなどの情報に頼ることが多くなっています。そんな場合、マルチストリームの F/H や MSVH などでテキパキ応答してくれる DX ペディション局の場合は良いのですが、ワンバイワンで QSO している常駐局などの場合には、DX クラスターにポストされた後では、激しいパイルアップになっていて太刀打ちできないことが多いのです。やはり、自力でワッチしてパイルアップにならないうちにサッサと QSO するのがスマートというものです。

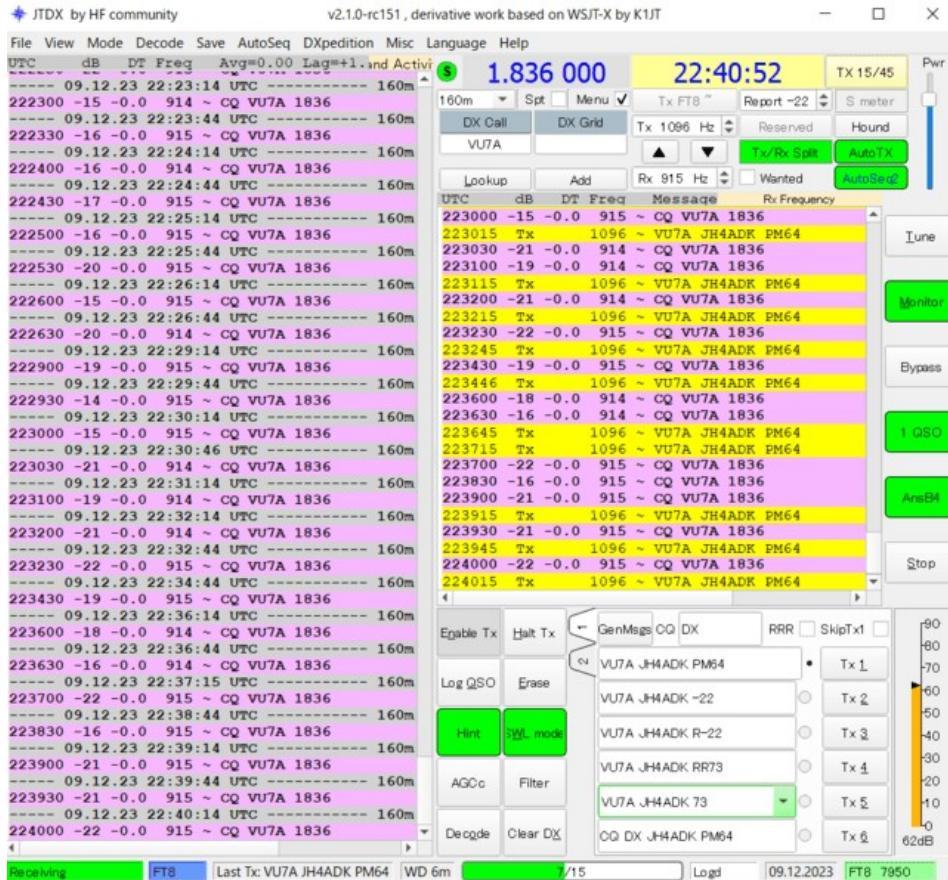
最近のペディション局は FT8 などのデジタルモードでマルチバンドにオンエアするのが一般的になっています。VU7A などは、一人で同時に 5 バンドにオンエアしています。やったことはありませんが、神業に近いと思うのは私だけでしょうか？

それに引きかえ、自分はというと、シングルバンドをワッチ（デコード）しているだけですから、恥ずかしくなります。少なくとも、デュアルワッチ機能を有効に利用して 2 バンドを同時にワッチする位でないとみすみすチャンスを逃がしているのかもしれません。

12月10日 VU7A 聞こえるけど全然飛ばない！

今朝、5 時半頃目が覚めた時に Clublog Livestreams のチェックしたところ、1817kHz にオンエアしていたので、もう少し寝て、再び 6 時半頃にチェックすると 1836kHz に QSY していたので、無線小屋に行きました。やはり、一昨日と同じく、TX 1817kHz/RX 1836kHz というスプリット運用でした。同時に Clublog Livestreams も表示して見ていました。弱いながらもデコードできるので早速呼び始めたのですが、一向に

応答がありません。こちらからは 1836kHz で送信しているのですが、電波が届いていないようです。QSB もあったので、ずっと呼び続けるのではなく、一休みしながら、ちゃんとデコードできたら呼ぶということを繰り返しました。日の出時刻である 7 時頃にフェードアウトするかと思いきや、8 時頃まで VU7A の CQ はデコードできていました。但し、以前聴いた時よりもピーク時の信号強度は下がっているような気がします。



今日は送受のセッティングを少し変更しました。JTDX の周波数は 1836kHz に設定し、IC7851 をデュアルワッচにしてサブの周波数を 1817kHz にします。更に、JTDX のオーディオ入力を SPDIF の右に設定すると、ウォーターフォールには 1817kHz が表示されるようになります。これで、受信は 1817kHz、送信は 1836kHz になります。このように設定にすると、オートシーケンスでスムーズに QSO できる筈ですが・・・残念ながら QSO には至らなかったので・・・トホホです。これだけだと、送信周波数が他局と被っているかどうかのチェックができないので、WSJT-X のオーディオ入力を SPDIF の左に設定してメインである 1836kHz が受信できるようにしました。

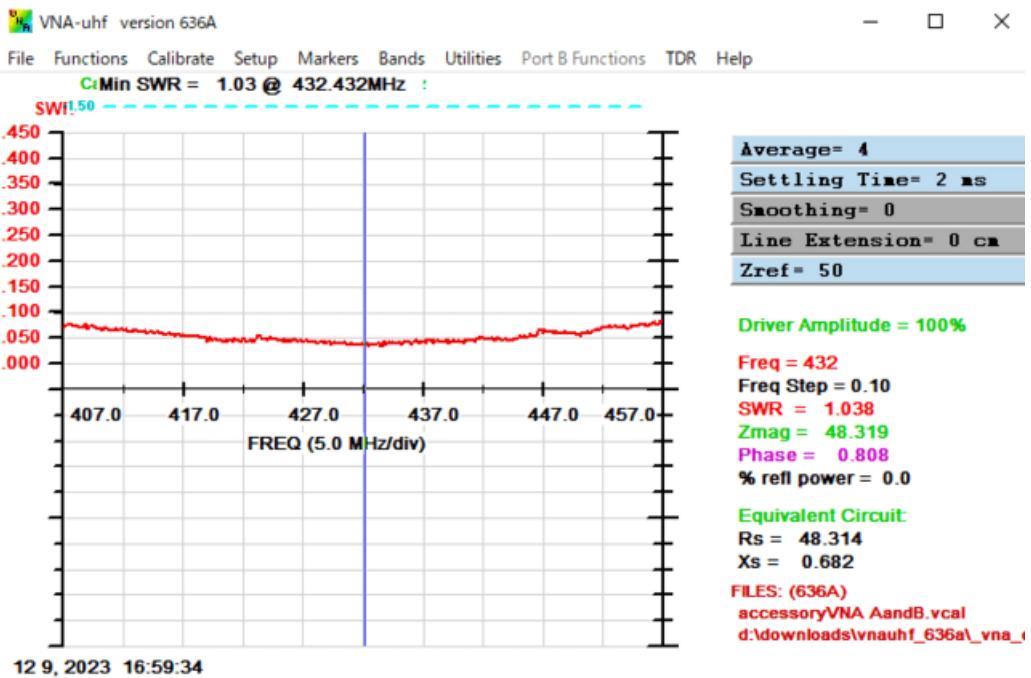
QRZ.com の VU7A のページを見ると、船は 12 月 13 日なので 04Z (現地の朝) までに準備完了しなければならないとのことです。当日の朝までローバンドに QRV するらしいので、明日と明後日に未だチャンスは残されているようです。

12月11日 432MHz用2分配器の試作

432MHzEME用アンテナのブームには25角アルミパイプ（厚さ2.5mm）を使用したので、この端材で2分配器を作ることにします。432MHzの $\lambda/4$ 波長は173.6mmですが、DG7YBNの記事によれば、コネクタのインダクタンスの影響を受けるので、5m短くした方が良いとの記述があったので、中心導体（ $\phi 12.0\text{mm}$ アルミ丸パイプ）の長さは168mmとしました。VNAuhfを使って試作品のSWRを測定したところ、454.04MHzで最小のSWR=1.05になりました。432MHzでは1.067なので、SWRは平坦な特性です。454.04MHzでSWR最小ということは、高めの周波数で最小SWRになっているため、短くしたのは逆効果でした。

2度目の試作では中心導体の長さは素直に173mmとして製作しました。VNAuhfで測定すると、432MHzでSWR=1.038、432.43MHzで最小SWR=1.03でした。これくらいの特性で佳として、中心導体を半田付けのできる $\phi 12\text{mm}$ の真鍮丸パイプに替えて、本チャンをV-pol/H-pol用として2本製作しようと思います。



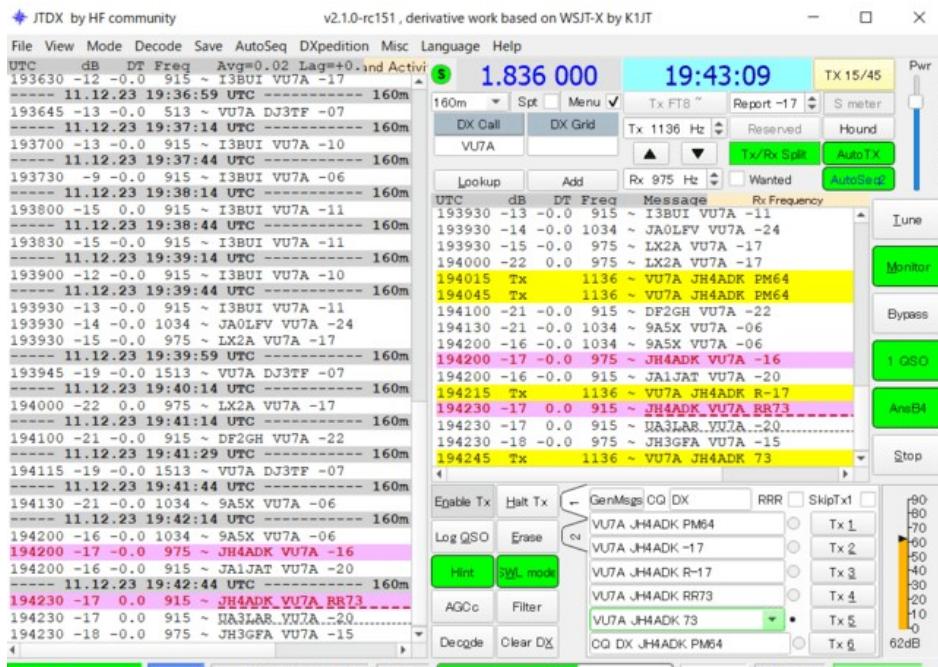


12月12日 遂にQSOできたよ VU7A on 160m band

今朝、尿意を催して目覚めたら5時頃でした。未だ早いかな?と思いつつ、パソコンを起動してLiveStreamsを見ると、VU7Aが1836kHzでQSOしていて、その中にはJA局

も含まれていました。夜明けまでには未だ時間があるので、聞こえないかもしれないな・・・と思いつつ無線小屋に行きました。

ワッチを開始すると、信号は強くてピークで+4dB にも達していました。QSBがあるので信号強度は刻々と変化します。互いに電波が届いていないのか、1つの局に5回も応答するケースもあって、QSOはスローテンポで進みます。一昨日同様になかなか飛ばないなあ・・・と思っていたところ、シングルストリームから3ストリームに変わったので期待していたところ、突然返信がありました。レポートを送信すると、RR73が返ってきてQSO成立です。やったー！1週間位の間、この局と160mでQSOすることを夢見て毎日ワッチしてやっとQSOできたので、喜びもひとしおです。ClublogLiveStreamsのスナップショットも忘れずに記録しました。VU7Aは、現地の夜明けまで運用して、数時間後には船に乗船する予定なので、間に合って良かったです。

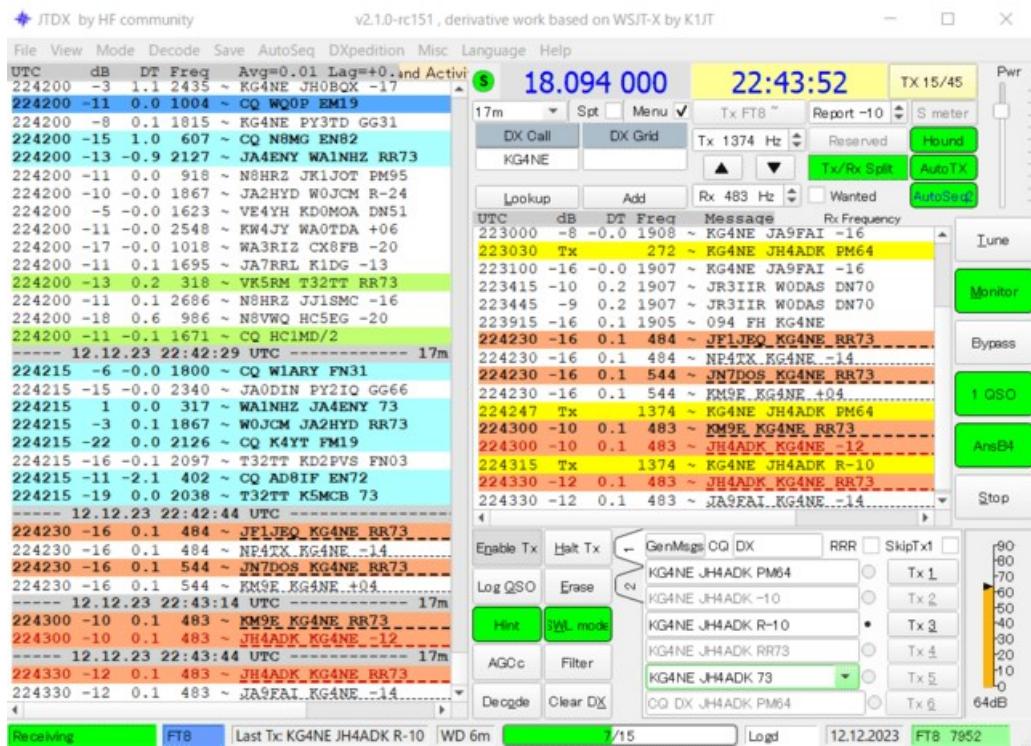


19:43:44 49202 QSOs Rate: 14 QSOs/hr					
30:	160M	1.836	FT8	9A7Y	
29:	40M	7.145	SSB	LZ2CW	
28:	40M	7.145	SSB	F4HCD	
27:	40M	7.145	SSB	LA6HX	
26:	40M	7.145	SSB	SP7MOC	
25:	160M	1.836	FT8	I28JAI	
24:	40M	7.145	SSB	RC7KY	
23:	160M	1.836	FT8	JA1KAW	
22:	160M	1.836	FT8	RA1AOB	
21:	160M	1.836	FT8	UA4N	
20:	40M	7.145	SSB	OH6NEQ	
19:	40M	7.145	SSB	SP2YY	
18:	160M	1.836	FT8	IK3VBB	
17:	40M	7.145	SSB	RUD0X	
16:	40M	7.145	SSB	SP2DUS	
15:	40M	7.145	SSB	JA2VPO	
14:	40M	7.145	SSB	RX9MN	
13:	160M	1.836	FT8	HB9CQK	
12:	160M	1.836	FT8	1070BB	
11:	160M	1.836	FT8	OM2DX	
10:	160M	1.836	FT8	HB9CQK	
09:	160M	1.836	FT8	UN7JID	
08:	160M	1.836	FT8	IK6HSM	
07:	160M	1.836	FT8	OM5FM	
06:	160M	1.836	FT8	S52Y	
05:	160M	1.836	FT8	9A3TR	
04:	160M	1.836	FT8	SP3HLM	
03:	160M	1.836	FT8	S52Y	
02:	160M	1.836	FT8	SP3HLM	
01:	160M	1.836	FT8	JH4ADK	

12月13日 KG4NE Guantanamo Bay on 17m

今朝は7時頃起床して、朝食を済ませた後、無線小屋に来てワッチし始めたところ、DXscape に KG4NE が 18100kHz に出ているという情報を得たので、早速 QSY して 2 回程呼んでみましたが、見えなくなってしまいました。VU7A は今朝も出ているようで、いつ出発するのか QRZ.com を読んで確認していると、先ほど KG4NE が送信していた周波数に、"094 FH KG4NE" というメッセージが表示されたので、即 QSY して F/H にセットしコールすると直ぐに応答がありました。

KG4 Guantanamo Bay は、キューバにある米軍基地ですが、LoTW に QSL されているレコードは、2015年2月25日に KG4HF と 15mRTTY で QSO した一つだけです。米軍基地なので、大規模な DX ペディションというのではなく、中々出そうで出てこない珍カントリーの部類です。17m はバンドニューですし、FT8 ではお初です。



12月14日 マルチバンド用アンテナを比較検討

過日運用された 708AE/AD や 9L5M などの DX ペディションでは、15/12/10m では信号が弱くてデコードできないため大いに苦戦しました。ハイバンドのコンディションが良い時に折角 DX ペディションを行ってくれているのに、QSO できないなんて確実に機会損です。どうにかならないものか・・・と色々考えているところです。現在主砲として使用しているアンテナはナガラの T3-11DX という 11 エレメントの 20/15/10m バンド用トライバンダーです。1993年頃に中古品を譲り受けて以来、もう 30 年位使用しています。SWR は別段悪くはないのですが、受信が県内の各局に比べて見劣り（聞劣

り?) しているように思います。ひょっとしたらトラップが故障していてゲインが低下しているんじゃないかなと疑心暗鬼になっています。30年も使っているので、そろそろ別のアンテナに取り換えてみてはどうか? という考え方もあるので、各社のマルチバンドアンテナを比較検討してみました。

マルチバンドアンテナ比較検討								
モデル名	メーカー	ブーム長(m)	回転半径(m)	重量(kg)	エレメント数	対応バンド	マスト近傍ブーム間隔	昇降容易性
T3-11DX	Nagara	10.97	7.42	43.6	11	20/15/10m		○
TH7DX	Hygain	7.32	6.1	34	7	20/15/10m	1.39○	
不詳	PerfectQuad	7.8		45	12	20/15/10m	2.4○	
T512GX	Nagara	7.32	5.56	52.7	12	20/17/15/12/10m	0.93△	
T59GX	Nagara	5.48	5.2	38.1	9	20/17/15/12/10m	0.93△	
TH11DX	Hygain	7.3	6.7	40	11	20/17/15/12/10m	0.61×	
KA1-204	Kojinsha	7.3	6.41	42.4	4	20/17/15/12/10/6m	2○	
KA1-404	Kojinsha	7.3	8.34	52.6	4	40/30/20/17/15/12/10/6m	2○	
DB36	SteppIR	11	7.8	72.5	40	30/20/17/15/12/10/6m	2.37○	

現在、KT22R+アンテナエレベータにT3-11DXを取付て使用しているので、アンテナエレベータに載せて昇降できることが要求事項の一つです。重量に関しては、アンテナエレベータを手動で昇降しており、現在でも重いと感じているので、これ以上のウエイトアップは遠慮したいところです。

検討の結果、HygainのTH7DX や Nagara の T59GX および T512GX は、5 バンドに含まれて FB なのですが昇降容易性という点で NG です。Kojinsha の KA1-404 や SteppIR の DB36 は 1 本のアンテナ・1 本の同軸ケーブルで 8 バンドにも出られて大変 FB ですが、重すぎるとお値段の点で問題です。これらのアンテナではコントロールケーブルの重量も馬鹿になりません。

無償で譲渡してもらった TH7DX と 30 年前に使っていた 4 エレ CQ の残骸を保有しています。これらのアンテナならアンテナエレベータでの昇降も可能ですし、重量も大丈夫です。Kojinsha の KA1-204 なら重量も昇降性も大丈夫です。トラップの件が心配なら、一度 TH7DX に取り換えてみるという手です。4 エレ CQ のブームとスプレッダーを流用して 5 バンド 4 エレ CQ にするのも一興です。・・・などと色々思案している今日この頃です。

12月15日 ちょっと変わったクロスマウントの製作

私は、所有しているアンテナタワー 4 基すべてにアンテナエレベーターを取り付けています。（パンザーマストを除く）このうち 2 基のエレベーターにはアンテナ本体は取り付けて、アンテナや工事機材をリフトアップする目的で使用しています。2m EME 用 4 パラスタックは、タワートップのマストに取り付けて使用しています。仰角ローテータ ERC-5A をアンテナエレベータに取り付ける金具の存在を知らなかったので、仕方無くタワートップに取り付けたのです。取り付ける時にも少し苦労したのですが、その時に使っていた AFA75 用のクロスマウントは、6m 用 10 エレ八木に使ってしまったので、アンテナを下ろすに下せなくなってしまいました。今回、これを下ろすために、専用のクロスマ

ウントを製作しました。他のアンテナの昇降にも利用できるでしょう。

エレベータには長さ 2m 位の 40A パイプを取り付けて、このクロスマウントをパイプのトップに挿し込んで使用できるようなものにしました。荷重はパイプに掛かるので、普通のクロスマウントのようにスラスト荷重を受けるための U ボルトは設けていません。昇降時にアンテナが動かないように、アンテナのブームは U ボルトで固定しますが、緩く締めるだけで良いでしょう。

材料のパイプには、STPG 圧力配管用鋼管 (50A-sch80) 外径 60.5mm 厚さ 5.5mm 長さ 200mm を用いました。内径は 49.5mm なので、40A (外形 48.6mm) のパイプがスッポリ入ります。アンテナのブームを載せた時に、U ボルトで固定し易いように、山形鋼でガイドを作りました。パイプと鉄板や山形鋼などは溶接し、仕上げにローバル (Roval) を塗りました。溶接は慣れないので、自信がありませんが、無風時のアンテナ工事に使用するだけの目的で製作したので、多分大丈夫でしょう。

パイプや鉄板等は、福井県勝山市の横山テクノで購入しました。



12月16日 駐車場は、ほぼ完成したけれど・・・

昨日までに、新しく購入する次期キャンピングカーである FIAT DUCATO 用の駐車場がほぼ完成しました。あとは、型枠を外して、周囲の溝にコンクリート打ちをするだけです。



今日は、DUCATO を引き取りに高松まで行くべく、吉備プラザ 9 時 35 分発のバスで岡山駅に向かいました。実は今、バスのキャンペーン期間中で、最大 200 円という破格の運賃なので、利用してみようと思ったのでした。岡山駅に着いて、高松までの切符を購入し、マリンライナーが入るホームに行って時刻表をよく見ると、強風のために瀬戸大橋を渡ることができないというのです。あちゃあ～！！！

バスで來たので、バスで帰ろうと思って時刻表を調べると、午後 2 時 47 分が一番早い便でした。仕方なく、イオンモールに行ってランチを食べて、映画館に行って時間を潰しました。

後で分かったことですが、今日の運休は昨日から予定されていたとのことです。良く調べて行けば良かったなあ・・・と後悔しても後の祭りです。DUCATO の引き取りは、後日、雪や風などの天候を見てリベンジしたいと思います。

12月17日 町内会の忘年会

コロナ禍のために何年間か自粛していた町内会の宴会を、忘年会として開催しました。皆で集まって一杯やろうという趣旨です。資金も豊富にあるので、備牛の鉄板焼きや宮城県松島の殻付き牡蠣および鮒の刺身・しゃぶしゃぶという豪華な料理にしました。今日は寒い一日でしたが、有広の車庫は熱気に包まれていました。



12月18日 2台目のポタ電 ALLPOWERS S2000Pro

ALLPOWERS のポタ電がクリスマスセールで 61%オフの 64,999 円で販売されていたのを見て、思わずポチッとしてしまいました。1 年半程前に ECOFLOW の EFDELTA を購入した時には、3 つか 4 つかの製品を慎重に比較検討したのですが、今回は安さに魅かれてほぼ衝動買いです。

目的としては、今度のキャンピングカーのメイン電源として使用するつもりです。EFDELTA よりも容量が 1.5 倍位大きく、操作面にコンセントなどが揃っているので使い易そうです。プラス、Bluetooth でリモコン操作ができるというオマケもついています。EFDELTA は、キャンピングカーでの利用以外に、農作業などにも使用していて大変重宝していますので、2 台あれば互いに予備機として利用でき、信頼性がアップします。

ALLPOWERS の評価や評判はあまり良くないようなので、早速開梱して、動作させてみました。初期の充電量は 77% でした。AC コードをつないで充電しました。一応ちゃんと充電できるようです。最初は 1200W 位で充電していましたが、90% 位になると 600W 位で充電するようになりました。電動工具（ディスクグラインダー）をポタ電で動作させてみたところ、正常に動作しました。USB 端子から、空調服のポタ電に充電してみたところ、これも OK でした。Bluetooth でリモコン操作できるように、スマホにアプリをダウンロードして起動したところ、思ったように動作しました。スマホで AC および DC 電源の ON/OFF ができたり、充電量などが確認できるので、キャンピングカーに積載した場合には便利に使えそうです。

今日の試運転の結果では、初期不良は見当たりませんでした。



12月19日 DUCATO引き取り

16日に予定していた高松行きをやり直して、やっと FIAT DUCATO を引き取ることができました。きびプラザ9時発のバスに乗り、10時頃岡山駅に着いて、10時23分発のマリンライナーに乗って高松に11時18分に到着しました。思えば、瀬戸大橋は何度も車で通ったことがあります、瀬戸大橋線の列車に乗車するのは瀬戸大橋が開通して以来初めてのような気がします。コロナが明けて電車の旅も良いもんです。岡モータースのTさんが高松駅まで迎えて来てくれました。幾つかの注意事項を説明して下さったあと、納車のセレモニー（記念撮影）がありました。



その後は、DUCATO に乗って自宅に向かいました。燃料を1/3位入れてくれてたので、家に帰着するには足りる量です。途中、与島SAに立ち寄って、昼食にうどんを食しました。今日は比較的穏やかだったので、瀬戸大橋の上でも風に煽られてハンドルを取られるようなことはありませんでした。賀陽ICで岡山道を降りる頃に燃料計がレベル低下を表示したので、賀陽SSに立ち寄って給油しました。軽油を給油するのはランクル70以来なので、約20年振りです。70リットル近く入ったので、約1万円かかりました。軽油とガソリンの価格差が小さいので、軽油の恩恵が薄くなっています。賀陽ICから賀陽SSまでの区間は山道でアップダウンがあります。DUCATOはオートマですが、BとかLなどのポジションがありません。どうなるんだろうか？と思っていましたが、Dポジションで自動的にシフトダウンするので、エンジンブレーキは結構効きました。右ハンドルなので、走行中に違和感はありませんが、ワインカーとワイパーのスイッチ（レバー）が逆なのに、少し違和感がありますが、その内慣れるでしょう！

今日は車を引き取りに行っただけで、改造には着手しませんでした。運転席と荷室の間の隔壁だけでも取り外そうかと思ったのですが、2か所だけトルクスネジ（星形の窓み）が使われていたので、とりあえず適合しそうな工具をAmazonでポチッとしておきました。

12月20日 Fiamma F80S Ducato 320 roof awning

Ducato L2H2 を素の状態で購入しましたが、オーニングだけは取り付けて貰いました。何故なら、一人で取り付けるのは大変だからです。ハイエースの時は、友人に手伝ってもらって、なんとか取り付けましたが、せっかくキャンピングカービルダーから車を購入するのだから、それくらいはお手の物だろうと思ってお願いしたのです。



モデル名は、Fiamma の F80S Ducato 320 というルーフオーニングにしました。ハイエースの時には、F45S 340 というサイドオーニングを取付けました。ハイエースのスーパー長には丁度良いサイズだったので、オーニングを広げている時、雨が隙間から吹き込むので、雨が降る時には、水道パイプの保温材で応急処置的に隙間を埋めました。サイドオーニングというのは、壁に取り付けるものなので、どうしても隙間ができてしまいます。そこで、雨の吹き込みを避けるために、ルーフオーニングという天井付けのオーニングにしたのです。



思った通りに隙間ができるないかどうか確認したところ、バッカリOKでした。F80S Ducato 320 というモデル名が示す通り Ducato 専用のアタッチメントが付属していることです。自分で取り付けていないので、どうなっているのか詳細は不詳ですが、屋根に穴を明けることなく、Ducato の屋根に出ていている釘の頭のような金具を利用して取付られています。サイドオーニングは、大抵の場合、壁や屋根に穴を明けてボルトでアタッチメントを取付けるようになっています。ハイエースの時には、自分で穴明けしました。幸い、その部分から水漏れすることはありませんでしたが、新車に穴を明けるのは一寸度胸が要ります。

今回は、MAXXFAN を取付ける予定はありませんが、Ducato の屋根には天井換気扇を取付けてくださいと言わんばかりのフラットになった個所があります。ハイエースの屋根にはそういう場所がなかったので、MAXXFAN を取付ける時にはかなり苦労しましたし、10 年位経過した一昨年には水漏れしました。Ducato なら大丈夫なような気がします。



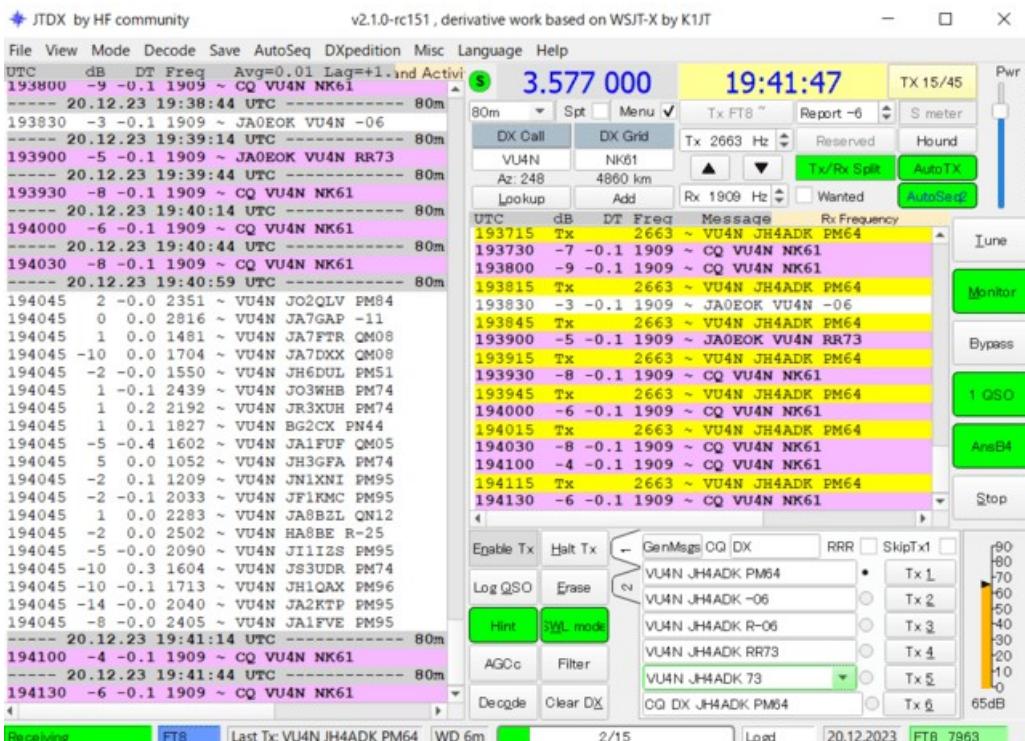
オーニングを開いたり閉じたりするハンドルが付属しているのですが、F45S のモノよりも太くて重いのは困りものです。パイプの長さが調整できるようになっているのは便利なのでしょうが、それが原因です。F45S のハンドルで回してみたところ、どうやら利用できそうなので、それを流用しようと思います。



12月21日 VU4N Andaman Is.

Krish(W4VKU)は、VU7AをQRTした後、直ぐにインドのもう一つのセパレートエンティティーであるVU4 (Andaman and Nicobar) からQRVしています。VU4は80mから6mまでコンファーム済みなので、160mだけがバンドニューです。なので、最初の頃は静観していましたが、日が経つにつれてついつい呼んでしまい、40mから10mのFT8ではQSOできました。昨日の朝、80mに出ていたので少し呼びましたが、QSOレートが超スロー (VU4NからJA局に応答があるが、QSO成立に至らない状態) だったので断念しました。

今朝、4時頃に目覚めたのでClublog Livestreamsをチェックすると、JA局ともQSOしているようだったので、寒い中無線小屋に行って呼んでみましたが、全然応答がありません。どうも耳が悪いようです。VU4Nの信号はピークで-3dBで来ていますが、片パスなのか彼の地のQRNが激しいのかCQを連発していました。もう一眠りしたかったので、5時前にはQRTして床に就きました。



朝食を済ませて、7時頃に無線小屋に来てみると、割とテンポ良くJA局とQSOしていましたので、空いている周波数を見つけて呼んだところ、+3dBレポートが返ってきました。ヤッター！と思ったのですが、QSOには至りませんでした。残念！

VU4Nは3578kHzに出るとQRZ.comのページに書いていますが、この周波数はバンドエッジなので、要注意です。ダイヤルを3578kHzに合わせてTxを2000Hz以上にセットして呼べばオフバンドになってしまいます。私は、安全のためにダイヤルを3577kHzにセットして、3000Hz以下で呼ぶようにしています。

VU4Nは、未だ160mにはオンエアしていないようですが、80mがコレでは160mはどうなることやらと先が思いやられます。

UTC	dB	DT	Freq	Message	Rx Frequency
221330	-10	-0.0	1909	~ JA4GYE VU4N -08	
221345	Tx		1101	~ VU4N JH4ADK PM64	
221400	-6	-0.0	1969	~ JH4ADK VU4N +03	
221400	-6	-0.0	1909	~ JH5PXJ VU4N -07	
221415	Tx		1101	~ VU4N JH4ADK R-06	
221430	-9	-0.0	1909	~ JH5PXJ VU4N RR73	
221430	-9	-0.0	1909	~ JK4KSD VU4N -16	
221430	-10	-0.0	1969	~ JH4ADK VU4N +03	
221445	Tx		1101	~ VU4N JH4ADK R-10	
221500	-7	-0.0	1969	~ JK4KSD VU4N RR73	
221500	-7	-0.0	1909	~ JA5DNJ VU4N -20	
221500	-7	-0.0	1909	~ JH4ADK VU4N +03	
221515	Tx		1101	~ VU4N JH4ADK R-07	
221530	-6	-0.0	1909	~ JA5DNJ VU4N -19	
221530	-7	-0.0	1969	~ JH4ALY VU4N -23	
221545	Tx		1101	~ VU4N JH4ADK R-07	

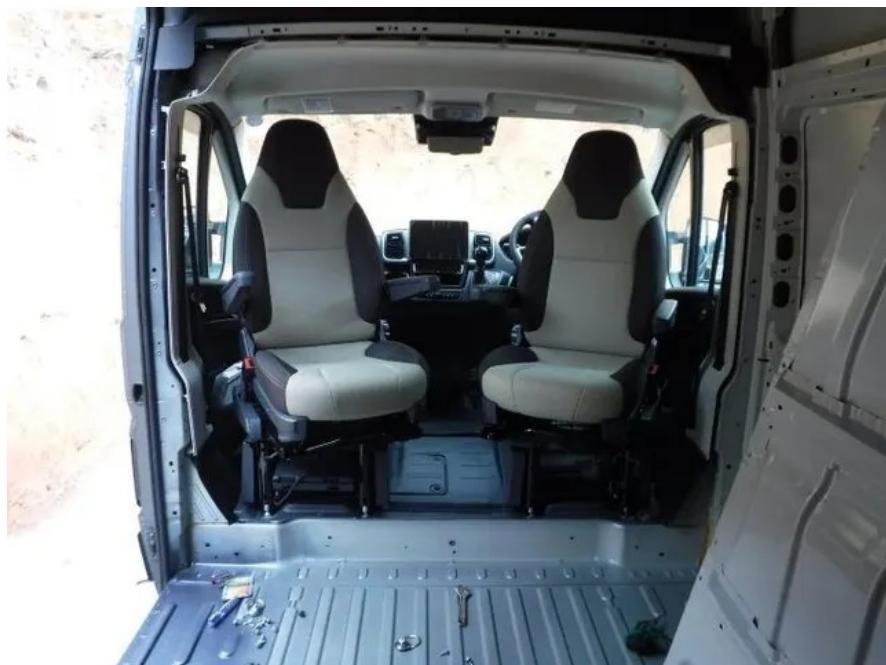
12月22日 DUCATOの隔壁を撤去



今回購入したDUCATOは素の状態です。後ろのドアを開けると、こんな状態になっていて、断熱材はおろかカバーのようなものが壁にも天井にもにもありません。購入前に一度見に行っているので、驚くことはありませんでしたが、知らなかつたらさぞかしふりしたことでしょう。荷室と運転席の間に隔壁があります。これを取っ払って、今後どのように改造するのかというイメージを掴みやすくしました。



先日 Amazon で注文していたトルクスネジ用ビットが届いたので、早速、隔壁の撤去作業をしました。一番大きなビットが丁度適合しました。トルクスネジで荷物を固定するフックが 2 個取り付けられていました。後は、M10 のボルトが 1 本と M8 のボルトが 15 本でした。



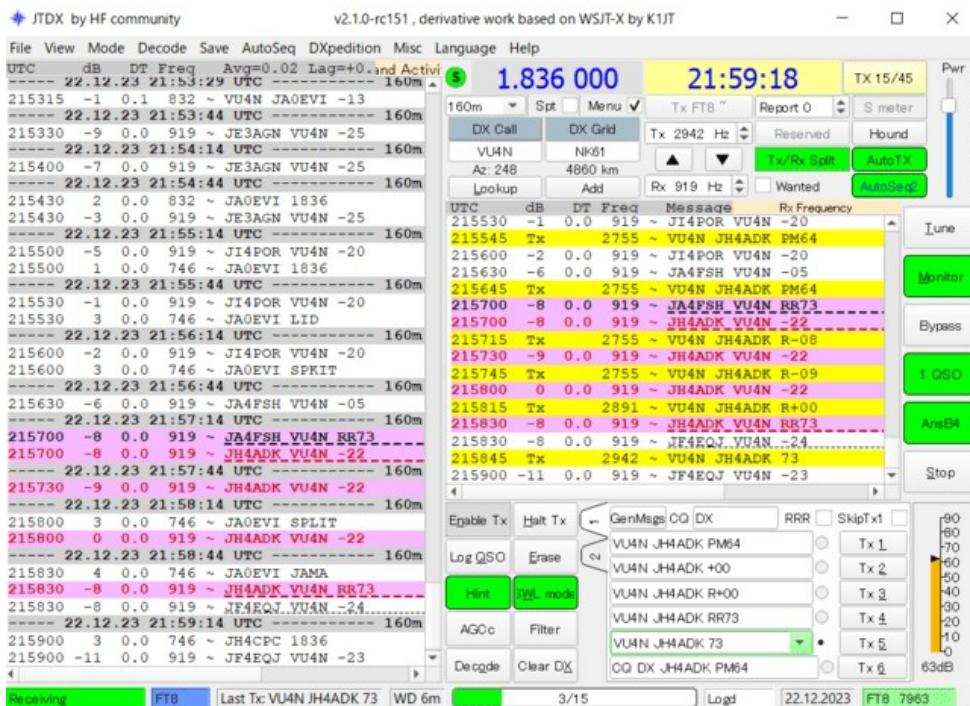
隔壁を外すことで、やっと、運転席と助手席のシートが回転できるという独特的の機能を確かめることができました。これらのシートを食事をするときの椅子として利用できます。写真のような向きに回転して座ってみると、足が床まで届きません。この高さだと、バーのカウンター席のようです。DUCATO ベースのキャンピングカーでは、20cm位床を高くしてあるようです。高さ 26cm の箱を床に置いてみたところ、丁度良い位でした。

色々な場所の寸法を測ってみて、あれこれと改造のプランを思い描いています。これも至福の時間です。

12月 23日 VU4N on 160m

此処のところ寒い日が続いているので、早朝に起きるのは億劫なのです。それでも、VU4N がオンエアしている内になんとか 160m でバンドニューがゲットしたくて、6 時過ぎに無線小屋に行きました。今朝は、VU7A の時と同じように TX:1817kHz, RX:1836kHz というスプリットで運用していました。IC7851 の Main を 1836kHz に Sub を 1817kHz してデュアルワッচにし、JTDX のオーディオ入力を「右」に設定して Sub を受信するようにしました。

今日は強く入感していましたが、なかなか拾ってもらえません。WSJT-X も起動して時々 Main を受信し、空いている周波数を探して JTDX 側で TX 周波数を設定します。



呼び始めて1時間近く経った頃に漸く応答がありました。VU4Nの信号はピークで-1dBと強いのですが、貰ったレポートは-22dBです。QRNが凄いんでしょうね。何はともあれバンドニューをゲットできました。ClublogのLiveStreamsとlogcheckでQSOレコードを確認できたので、一先ず安心です。

その後、ついでに80mでもQSOしておこうと思ってQSYし、コールを開始しました。80mバンドでもスプリット運用していて、TX:3578kHz, RX:3547kHzでした。しかし、いくら呼んでもCQの連続で応答はなく、7時半頃には諦めて朝食のためにQRTしました。

それにしても、VU4N Op=Krish W4VKU は同時に 5 バンドでオンエアしています。各バンド毎に別々のアプリ (MSVH) を起動して運用しているのでしょうか、同時に 5 つの画面を見ながら応答する姿を想像すると曲芸師のようです。QRZ.com には毎日のアップ

データがブログのように書かれていますが、それを読むと、主語は I ではなく We になっています。複数のオペレータが居るのでしょうか？アンテナをセットアップする時に誰かに手伝って貰っているということなのでしょうか？？

12月24日 デッドニングシートの比較検討

商用バンをキャンピングカーに改造するYoutubeを見ていると、防音のためにデッドニングシートを壁や天井・床・ドア等に貼りつけるという技があることを知りました。現用のハイエースには、そんなテクを施していないので、大粒の雨が降ったりすると、とてもうるさくて夜中に目が覚めたりします。まさに It's raining cats and dogs. です。デッドニングという技で、振動を抑えて騒音（ノイズ）を軽減できるらしいのです。

DUCATO を改造するにあたって、最初にデッドニングシートを施工することにします。そのために、デッドニングシートを手配しなければなりませんが、どのデッドニングシートにするのか比較検討しました。数あるデッドニングシートの中から次の3つをピックアップしました。

デッドニングシートの比較検討							
ブランド	寸法(WxHxT)[mm]	枚数	合計面積[m ²]	合計重量[kg]	面密度[kg/m ²]	価格	平米価格
VELENO	5600x500x2	1	2.8	11.2	4	¥ 12,400	¥ 4,429
REAL SCHILD	300x400x1.9	2	0.24	1	4.17	¥ 4,350	¥ 18,125
ZHUBANG	800x460x2	8	2.944	11.6	3.9	¥ 7,800	¥ 2,649

デッドニングシートにより防音するというのは、 $F=ma$ というニュートンの運動の法則にある m 、即ち質量を増すことで振動し難くするというものです。貼り付けるシートが重ければ重いほど制振効果がある筈です。REAL SCHILD が一番、面密度（単位面積あたりの質量）が大きいので効果がありますが、価格が凄く高いのが難点です。ZHUBANG がコスパで勝っているので、これを採用することにします。

12月25日 駐車場の霜崩れ対策

つい最近造ってもらった駐車場ですが、三方が土の壁というか法面で囲まれていて、特にこの時期は、霜崩れにより土が法面から落ちてきます。落ちてくるだけならいいのですが、風が吹けば土埃となって、車に降り積もるので困りものです。工事完成後に未だ本格的な雨が降っていないのは幸いで、雨が降れば法面を伝って雨水が流れ、最悪の場合崩れるなんてこともあります。

そこで、手近な材料で応急処置的な対策をすることにしました。材料は、ブドウトンネルメッシュの上に張る農ポリです。幅 2m で 1 本 100m なので、手持ちの材料で行けそうです。農ポリの両側にマイカ線をホッチキスで留めて、上下の左右から引っ張ることにしました。駐車場の奥側から作業を始めましたが、昼過ぎになると風が強くなりました。やはりビニール張りには風が大敵ですので、今日の作業はこれまでとしました。



その後、現場をみながら他に良い手はないかとアレコレ考えたところ、そうだ！農ポリを「パッカー」と「直管パイプ」で留めよう！と思い着きました。早速、近くのホームセンターに行って、φ19mm3.6mの直管パイプを14本とパッカー50個を仕入れてきました。

12月26日 猪のベーコン作りと雨水排水路工事



一週間程前に、近所の獣師さんからいただいた猪のバラ肉をソミュール液に漬けていました。昨日、水にさらして塩分を抜いた後に風乾しておいたので、朝から燻製器に入れて燻しました。燻製器の電熱ヒータが故障していて、修理に時間がかかってしましたが、なんとか修理できました。電熱ヒータのスイッチの部分がボロボロになっていたので、スイッチは無しにして、直結しました。どっちみち、電熱ヒータは、温度制御するために自作のコントローラで ON/OFF するようになっているので問題ありません。

燻製作業と並行して、雨水の排水路を確保するための工事をしました。駐車場を造成して以降、雨が殆ど降っていないので、雨水の排水に関して問題が顕在化していませんが、埋め立てて土羽仕上げにしている法面のどこかに集中して道路の流れ込んだ雨水が流れる大変なことになりそうです。それを防ぐために、地面の低そうな場所に枠を設置して、枠からVU75パイプで法面の下まで排水路を確保しました。枠の底の部分になどはインスタント生コンで仕上げる予定ですが、最近は冷えるので暖かい日を選んで施工しよう思います。



12月27日 雨水排水路の仕上げと門松作り

今日は晴れて気温が上がるという天気予報だったので、朝一番からドライ生コンを練って、コンクリート打ちをしました。枠の周りだけなので、ドライ生コン 20kg が 2 袋で十分足りました。余ったコンクリートは、雨水が崖に流れないように土手を作りました。

今年も残すところ僅かになってしまいました。昨年は足のケガをしていたので、門松作りは休みましたので、2年振りです。門松作りで一番手間が掛かるのは、竹を斜めに切ることです。久しぶりなので、最初の何回かはウォーミングアップのための練習でした。



竹が用意できたら、後は家のまわりにある松、梅、紅白の南天などを飾るだけです。華道の心得は全くないので、適当にアレンジしました。我が家では稻作をしていないので、しめ縄を作ろうにも稻藁がありません。代わりに門松を作っているのですが、購入したのは紅白の葉ボタン2対だけで、後は有り合わせの材料のみなので、コスパが良いのです。



12月28日 DUCATOの隔壁を再利用？！

DUCATOの隔壁（運転席・助手席と荷室を仕切る壁）を除去すると、次の写真に示すように、運転席側の天井と荷室側の壁に溝が出来ています。運転席の天井の上の空間は物入として利用するつもりです。



なんとか、見栄え良くカモフラージュしようと考えていると、そうだ！隔壁の一部を切り取って再利用できるんじゃないかな？！と思い着きました。どうせ隔壁は要らないので廃品回収業者に引き取ってもらうつもりです。それなら、というわけで、エアープラズマカッターで切り取りました。



切り取った隔壁の一部を、元々あったボルトで取り付けてみました。

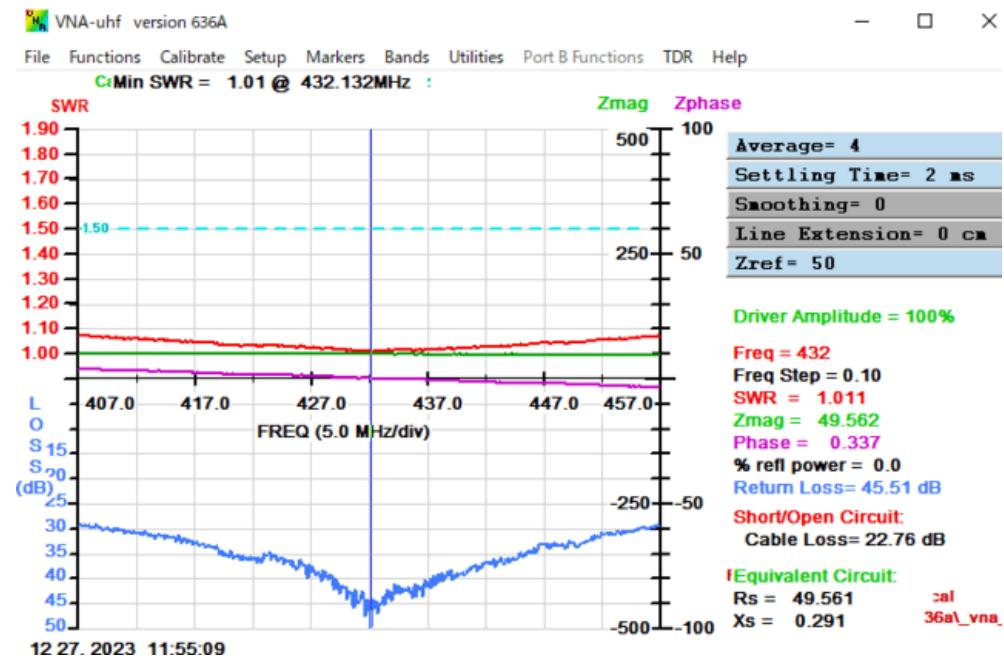
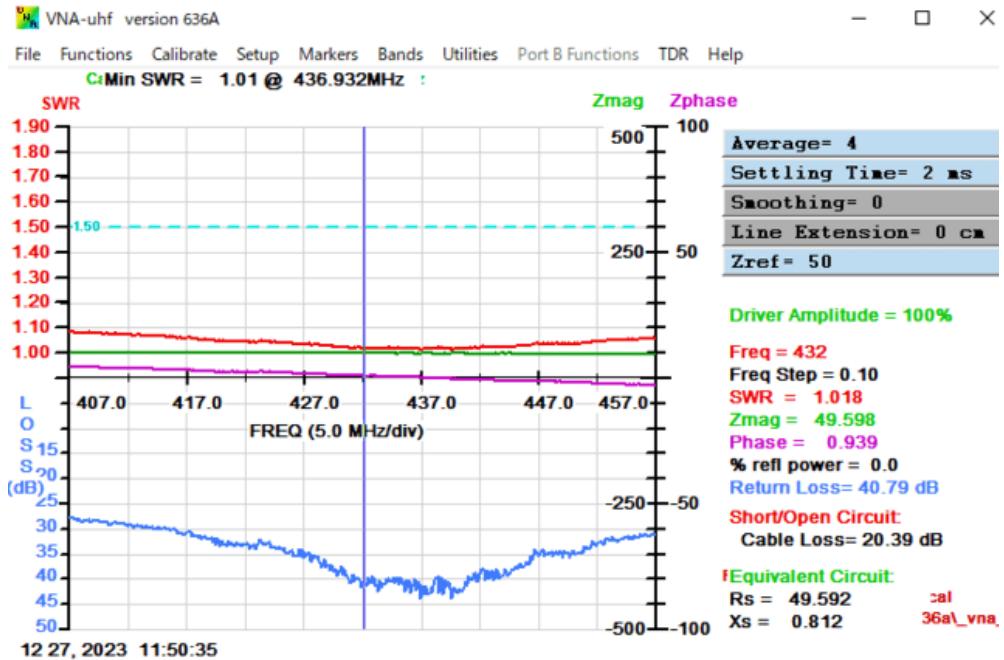


良いような悪いような微妙な感じです。この鉄板にビスで木材を取り付けるなどの利用価値はあるかもしれません。

12月29日 430MHz帯用パワースプリッターの作り方

432MHzで月面反射通信を行うために、パワースプリッター（分配器）を製作していましたが、1回目の試作を経て2個製作しました。思った以上に良好な特性だったので、製作記事としてまとめることにしました。

まずは、2つの分配器のSWRなどの周波数特性を以下に示します。1号機と2号機の特性が若干異なるのは、素人の工作精度の甘さ故です。



1号機 2号機共に SWR<1.02@432MHz です。EME 用として 432MHz 近傍で使用する目的で設計しましたが、430~440MHz でも十分使用できると思います。

1号機と2号機の完成写真を以下に示します。



内部導体を中心に保持するために、3D プリンターでセパレーターを製作しました。また、防水のために、アルミ角パイプの両端に差し込むエンドキャップも 3D プリンターで製作しました。



内部導体として長さ 173mm の 12φ 真鍮丸パイプ 1mm 厚を使用します。内部導体の接触部分はコネクタの端子と干渉しない程度にヤスリがけしました。N型コネクタの取付穴は $\phi 2.5$ の穴を 1 つのコネクタに付き 2ヶ所明けて、M3 タップをたてました。2ヶ所でも穴が合わずには苦労するので、4つなんて無理です。

コネクタと内部導体の接続部の写真を以下に示します。

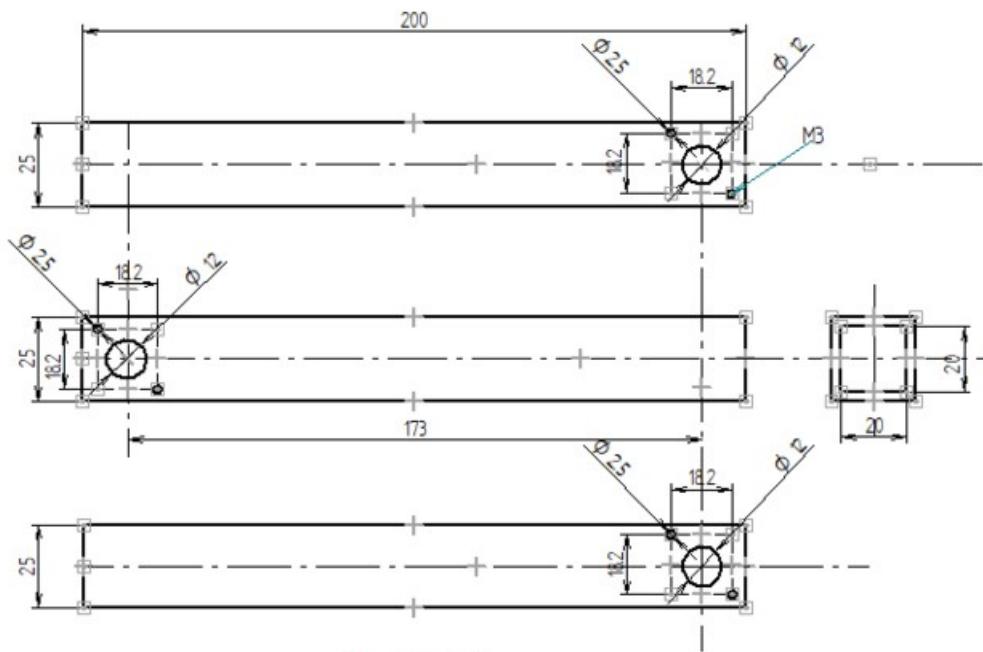


未だ半田付けしていませんが、SWR 測定はちゃんとできました。送信パワーを入れて本チャンで使用する前には半田付けするつもりです。奥の方にセパレータが見えます。

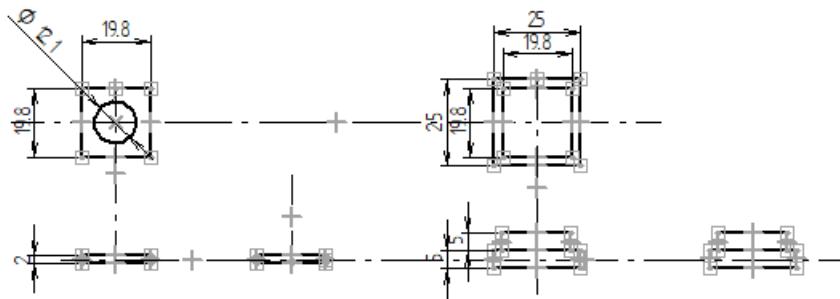
以下に図面を示します。CAD は SIEMENS の Solid Edge 2021 を使用しています。



Internal Conductor
Brass Round Pipe Ø12mm 1



External Conductor
Aluminum Square Pipe 25x25mm 25t



Separator
ABS 3D printer

End Cap
ABS 3D printer

12月30日 ハイエースに着けていたオーニングをピザハウスに移設

キャンピングカーとして使用していたハイエースは、自動車税の関係もあるので、2月末頃までには処分する予定です。処分するとなると、キャンピングカーとしての装備品の有無は価格にはあまり影響しないようなので、再利用できる装備品やパーツは取り外したいと思っています。手始めに、オーニングを取り外して、ピザ窯のある小屋（ピザハウス）に取り付けました。オーニングがあれば、雨が降っていても大丈夫ですし、日除けにもなります。



一人で作業するのは無理なので、娘婿に手伝ってもらいました。昨日から移設の準備をしていたので、短時間に作業を終えることができました。その後、裏庭で、焚火を囲んで暖を取りながら、鉄板焼きステーキと炭火での焼きガニでホームパーティーをしました。

12月31日 708ADとPR0TがLoTWで未コンファームなのは何故？

今日は年末なので、12月にQSOできたVU7AやVU4NなどのバンドニューのQSLをOQRSを使って請求しました。今日時点で、LoTWのChallengeが2271になりました。しかし、Mixedが322となっていて、PR0Tがコンファームできていれば、323になっている筈なのに変だなあ・・・と思ったのです。

DXCC Award	New LoTW QSLs	LoTW QSLs in Process	DXCC Credits Awarded	Total (All)	Total (Current)
Mixed *	8	0	324	332	322
CW *	8	0	299	307	305
Phone *	2	0	258	260	252
Digital *	29	0	271	300	300
160M *	5	0	118	123	123
80M *	9	0	182	191	191
40M *	7	0	266	273	272
30M *	19	0	254	273	273
20M *	10	0	279	289	284
17M *	33	0	238	271	271
15M *	31	0	248	279	276
12M *	73	0	165	238	238
10M *	65	0	178	243	241
6M	15	0	87	102	102
2M	2	0	20	22	22
70CM	0	0	1	1	1
Challenge *	267	0	2004	---	2271

色々調べてみると、PR0Tについては11月21日にM00OXOにOQRS請求していて、今日現在のステータスは、LoTW Uploadedとなっていますが、LoTWでは未コンファーム状態です。コンファームされた状態なら、QSL欄にエンティティー名が入る筈です。

DX Station: PR0T
Your Callsign: JH4ADK

Step 1 Step 2 Step 3

INSTRUCTION: Tick(✓) checkboxes to select the QSOs to be confirmed.

Note: Request again function is disabled for this DX station

Note: Optionally upload ADIF file to autofill following form

Select file ファイルを選択 選択されていません Submit

Band	Mode	Date(YYYYMMDD)	Time(HH:MM)	OQRS	LoTW Upload	Direct QSL	Buro QSL	Status
<input type="checkbox"/> 30 m	FT8	2023-11-19	08:56:00	<input checked="" type="radio"/> Requested	Uploaded			
<input type="checkbox"/> 20 m	CW	2023-11-19	09:03:00	<input checked="" type="radio"/> Requested	Uploaded			

2 Records Shown (1-2)
Sorted by QSO Date (0.009038 seconds elapsed)

	Call sign	Worked	Date/Time	Band	Mode	Freq	QSL
Details	JH4ADK	PR0T	2023-11-19 08:56:00	30M	FT8	10.13400	
Details	JH4ADK	PR0T	2023-11-19 09:03:00	20M	CW	14.01200	

同じ日にM00OXOにOQRS請求した708ADも同じように、M00OXOではLoTW Uploadedとなっていますが、LoTWでは未コンファーム状態です。708AEも同じでし

た。幸い、7O(Yemen)は7073TがLoTWでコンファーム出来ていますが、20/15mは708AD/AEとのみQSOできているので、未コンファームです。

DX Station: 708AD
Your Callsign: JH4ADK

Step 1 Step 2 Step 3

Instruction: Tick(✓) checkboxes to select the QSOs to be confirmed.

Note: Request again function is disabled for this DX station

Note: Optionally upload ADIF file to autofill following form

Select file ファイルを選択 選択されていません Submit

Band	Mode	Date(YYYYMMDD)	Time(HH:MM)	OQRS	LoTW Upload	Direct QSL	Buro QSL	Status
30 m	FT8		HH:MM	Requested	Uploaded	Sent		
20 m	CW		HH:MM	Requested	Uploaded	Sent		
15 m	FT8		HH:MM	Requested	Uploaded	Sent		
40 m	FT8		HH:MM	Requested	Uploaded	Sent		

4 Records Shown (1.4)
Sorted by QSO Date (0.007414 seconds elapsed)

	Call sign	Worked	Date/Time	Band	Mode	Freq	QSL
Details	JH4ADK	708AD	2023-11-05 21:33:00	30M	FT8	10.14600	
Details	JH4ADK	708AD	2023-11-05 22:25:00	20M	CW	14.02700	
Details	JH4ADK	708AD	2023-11-08 11:46:00	15M	FT8	21.08500	
Details	JH4ADK	708AD	2023-11-08 20:20:00	40M	FT8	7.08600	

M00XOのOQRSシステムでは、これらの局に対するOQRSの再請求はできないようなので、Not In Log?ボタンを使って、連絡しました。メールは送らないでね・・・と書いてあるので、この後様子をみたいと思います。一体何が原因なのでしょうか？？？

PROTや708AD等の運用がDXCCデスクに認められていないという可能性もあるかなあと思ってググってみましたが、他の局はLoTWでコンファーム出来ているようなので、その可能性はありません。